



発行日/2025年4月25日

編集・発行/堺市立健康福祉プラザ

視覚・聴覚障害者センター

聴覚障害者情報提供施設

〒590-0808 堺区旭ヶ丘中町4-3-1

Tel:072-275-5024 Fax:072-243-2222

Mail:mimi@sakai-kfp.info

みみより

78

ごあいさつ

楯 希代見

新年度が始まりました。視覚・聴覚障害者センターが開所して14年目の春です。4月初旬は気温も低く、仕舞った冬物をまた引っ張り出すような気候でしたが、桜が満開になるころには落ち着き、温かい風が「さあ、新しいことを始めよう！」という気持ちを後押ししてくれるようにも感じます。みなさまはどんな新年度を迎えられたでしょうか。



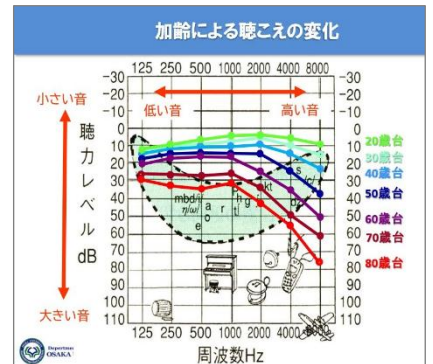
一昨年、昨年と、きこえない・きこえにくい人に関わる法律の施行や改正がありました。また、「みみより 77号」で取り上げた裁判でも、障害者差別の禁止に関わる判決が続きました。きこえる人と同時に同等内容の情報を受け取る。受け取った情報をもとに意思決定し、それを相手に伝える。周囲の人と対話し、考えを深めたり、工夫し合ったりする。そんな環境が一日も早く整うよう、事業を進めていきたいと思っています。11月には東京デフリンピックも開催されます。みんなで応援しましょう！

開催事業報告



《きこえのセミナー》

2/22(土)に大阪大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の大菌 芳之先生をお招きし、「きこえの仕組みと補聴器」をテーマに講演していただきました。最初に先生から「自分のデータを知っていますか？」という問いかけがありました。ほとんどの人が、身長・体重の数値はご存知だと思います。血圧や視力も知っている人も多いですが、聴力のことはいかがでしょうか？ オーストラリアで行われた調査では、視力は90%以上の方が「知っている」と回答したのに対し、聴覚の数値を知っている人は10%に満たなかったそうです。学会でも周知に取り組み始めたところで、最近、歌手の近藤真彦さんを起用したACジャパンのCMも目にされた参加者が多くおられましたが、なんとなく「聴こえにくいな」と感じてはいても、聴力検査を受ける方は少ないのではないのでしょうか。



先生は、耳の仕組みや加齢による聴力の変化についてとても丁寧に解説してくださり、「聴こえる」と「聴き取れる」の違いもわかりました。また、難聴はコミュニケーションだけでなく、社会生活や心理面にもさまざまな影響を引き起こすとのお話もありました。認知症の危険因子としても、難聴は8%を占めるそうです。

いきいきとした暮らしや社会参加を継続するために「聴こえ」を助けてくれるのが補聴器ですが、日本では難聴を自覚している方のうち補聴器を装着しているのは15%ととても低いです。耳鼻咽喉科医のサポート不足や補聴器に対するイメージ、試したときの不快さも要因となっています。早めに「補聴器相談医」のいる耳鼻咽喉科を受診し、「補聴器認定技能者」や「認定補聴器専門店」で相談するなど、難聴が軽いうち、若いうちの装着が補聴器に慣れやすく、効果も出やすいとのことでした。最初の1、2週間を頑張れば、「聴こえ」や「聴き取り」はずいぶん改善するそうです。センターでも月1回、補聴器相談を受けていますので、ぜひご活用くださいね。

参加者のみなさんからは、「補聴器の大切さがわかった」、「難聴者に寄り添うお話でとてもわかりやすかった」との感想をたくさんいただきました。大菌先生、ありがとうございました。

《みみサロン》



「宇都宮黙霖のお話」のテーマで、広島県呉市ろうあ協会会長の松岡雅之氏にお話いただきました。まずは、「呉」の手話表現の由来等の説明や、自己紹介。小学校低学年できこえなくなり、ろう学校へ通ったが手話が禁止だったこと、青年期に手話と出会って人生が広がったことなど、きこえない人々を取り巻く環境や価値観の移り変わりを知ることができました。

日本の歴史のお話では、吉田松陰や伊藤博文は誰もが知るような偉人伝が残っていることに対し、こういった偉人に大きな影響を与えた黙霖の名が残っていないのはなぜなのか？ わずかに残っていた資料から、黙霖の謙虚さと意思の強い人柄が影響していたことがわかってきたということでした。

講師の松岡氏は以前、ろう学校の社会科教師をしておられたということで、歴史的背景を含めたお話のスライドには、資料が見つかった寺や蔵へ実際に訪れて撮った写真などもあり、わかりやすかったという声が多かったです。資料探しの次は、地域の誇りを多くの人に知ってもらおうと、様々な活動をされているそうです。例えば、今回の講演会のきっかけになったのは、呉市ろうあ協会が自分たちで作った本でした。本を作るにあたって、2人の漫画家と松岡氏の文章での構成されており、子どもや文章が苦手な人にもわかりやすい内容になっています。

本の次は胸像設立です。このまま埋もれて忘れられないようにと、たくさんの方の有志によって胸像が設立されました。

出版後に新たにわかったことや、別の視点を加え、2冊目となる本もできているそうです。興味のある方は、購入することができますので、呉市ろうあ協会のホームページから調べてみてください。



【参加者の声】

- ・広島出身の禅僧でろう者の黙霖について知ることができました。手話もわかりやすく黙霖さんについてよくわかりました、本が本屋さんで買えないのが残念です。
- ・この講演で初めて黙霖さんのことを知りました。(多数)
- ・黙霖さんのような方の何の支えもない中での壮絶な頑張りが、今の私たちの礎となっていると思います。
- ・講師の丁寧な手話表現がわかりやすく、魅力的で、話しに引き込まれました。
- ・吉田松陰は知っていましたが黙霖の話は初めて知りました。参加できてとても良かったです。

《もじサロン（筆談会・わいわいおしゃべり会）》



3月はお1人の参加でした。「耳マーク」や赤い「ヘルプマーク」を広く周知するためにはどうしたらいいか？ 一緒に考え、筆談でおしゃべりしました。

「難聴」を相手に伝えるのはとても難しいです。「相手の気を悪くしてしまいそう」、「その場の雰囲気壊してしまうのではないかと勝手に想像して遠慮してしまい、言い出せなくなってしまいます。そんなときに助けになってくれるのが「耳マーク」ですが、まだまだ知らない人が多いのが現状。「マスクを外して欲しい」、「自分の順番が来たら近くに来て教えてほしい」などの思いはありますが…。病院等で大きな声で何度も名前を呼ばれ、周りの注目を集めて恥ずかしい思いをした経験は数え切れません。ただ大きな声で呼べばいいという勘違いの下、ただただ恥ずかしくストレスがたまる。病気を治しに行っているのにストレスが増えているっておかしい話です。「難聴」が恥ずかしいのではなく、注目を集めるのが恥ずかしいのです、くれぐれも誤解のないように

お願いしたいところです。こんな「難聴あるある」も、筆談で楽しんでいます。

4月は4名の方と筆談しました。3月30日(日)に行われた「字幕付きお笑いライブ」に参加された方が感想を話してくださいました。漫才は、そのコンビ独自の「間」や「テンポ」があります。それに合わせて字幕を表出するのは至難の業でしょう。今回のライブでは、とても大きなスクリーンの前に立つ漫才師2人の左右の頭の上辺りに文字が出てきました。司会進行にはなぜか字幕がなく、手話通訳だけがついていました。計3組の漫才師の中には、文字だけでなく、写真も使って表現しているコンビもいました。「手話はまだわからないし、字幕は速くて追いつけなくて、期待外れだった」という感想でした。お笑い大好きな職員も観に行き、わかりやすくとても楽しめましたし、今までなかったことを始めてくれたという大きな試みには涙が出るほど嬉しかったのですが…。万人が一緒に楽しめるまで、まだ時間が必要かもしれません。今後に期待したいと思います。必要なことは当事者にしかわからないので、どんどん参加して意見を伝えていきたいものです。その他、手話学習のことやお互いの体調の報告等も筆談しました。

パトカーの赤色灯「ホタル」順次導入

きこえない・きこえにくい人が車を運転中にパトカーが近づいてきた際、「パトロールなのか、緊急走行なのかの判断がつきにくい」という声を受け、赤色灯が光る間隔を変えられるタイプのパトカーが2024年の秋から導入されました。大阪府警でも3月18日時点で17台が配備され、車両変更に伴い、順次導入されるそうです。パトロールの時は、約2秒間隔でぼんやりと点滅する「ホタル」と呼ばれる光り方です。緊急走行の際は、今まで通り、約0.5秒間隔でチカチカと光ります。きこえない・きこえにくい人の「暮らしの不便」が少しでも解消するよう、声を上げていくことも大切です。少しでも早く、全車に整備されますように。



〔パトロール中の発光イメージ
(ホタルの明減を模擬)〕



〔緊急走行中の発光イメージ
(従来の緊急感のある発光)〕

画像提供：株式会社パトライト

「しゃべり描きアプリ」使ってみてね！

筆談や音声認識のアプリはいろいろありますが、今回、ご紹介するのは筆談+音声認識ができる「しゃべり描きアプリ」。三菱電機が手掛けたiPhone・iPad用のアプリです。今は2025年版で、画面が関西万博仕様になっています。マイクのボタンを押して話をし、指で画面に線を引くと文字が現れます。道案内や図示が必要な場面など、イラストも文字も入れたいときに便利なアプリ。無料で利用できるもので、興味のある方は使ってみてくださいね。

表示したい場所に線を引く

視覚聴覚障害者センター

マイクのボタンを押して話す

ペンを選択してイラストも描ける

文字が表紙される

視覚聴覚障害者センターでお試いただけます

向かいに花屋さんがあります

イラストと音声認識を組み合わせる筆談

手話奉仕員・通訳者養成講座

各種手話講座が始まります！！

今年度も手話通訳者養成講座の入門・基本・応用・実践講座が5月より開講します。また、市民向けの講座も6月から開講します(一部、8月開講あり)。多数のお申込みがあり、大変嬉しいです。受講者のみなさん、今年度も頑張りました！！

要約筆記者養成講座

要約筆記者養成講座開始！！

今年度の養成講座はパソコンコースです。5月10日の開講式から12月27日まで、毎週土曜日の午後行います。84時間の長丁場の講座となりますが、受講者のみなさんには、元気に楽しく受講してほしいです。

センター(聴覚)の行事

※行事はすべて事前申込が必要です。

5月 8日(木) 14:00~15:30

もじサロン(筆談会)

5月 9日(金) 13:30~16:30

補聴器相談(個別相談)

5月17日(土) 14:00~16:00

みみサロン

講演「プラスヴォイスのお話」

5月24日(土) 14:00~16:00

きこえのセミナー

「ヨメテルのお話」

6月13日(金) 13:30~16:30

補聴器相談

6月21日(土) 14:00~16:00

もじサロン

「わいわいおしゃべり会」

ご参加をお待ちしております。

ビデオライブラリーのおすすめ

「silent 4」

紬の家で再会した想と湊斗。湊斗は想を高校時代の仲間と行っているフットサルに誘います。紬と想が復縁するのではないかと懸念する同級生たち。

迎えた当日、想は迷いながらもフットサル場に向かいました。

「レジェンド&バタフライ」

天保18年、尾張の織田信秀は、隣国の美濃と和議のために斉藤道三の娘である濃姫を嫡男(ちやくなん)の信長の嫁として迎えました。派手好きな信長と、口げんかでも武芸でも信長に勝る濃姫は何かと対立。しかし、やがて2人は強い絆で結ばれ、天下統一への夢へ向かいます。

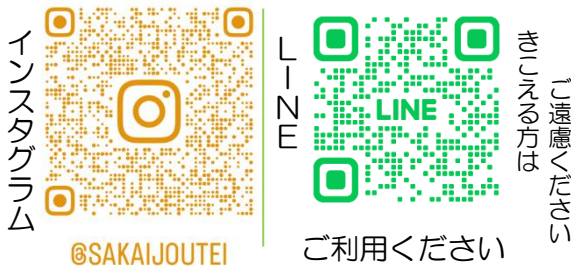
頑張っています 手話通訳・要約筆記登録者

実施済

- ・継続手話通訳者・要約筆記者説明会特別講演
- ・盲ろう者手引き研修
- ・新規登録者合同研修(1回目)

- ・新規登録者合同研修会 4/26「報告書の書き方」等
- ・要約筆記者新規ステップアップ研修
PC: 5/28・6/11、手書き; 6/7・25
- ・新規手話通訳者実技研修 5/20・27、6/3・17・24
- ・登録者合同研修 6/28: 調整中

センター(聴覚)のLINE・Instagram



事業状況

		手話通訳		要約筆記		ライブラリー	
		個人	講演	個人	講演	利用者数	貸出数
2月	派遣数	202件	27件	10件	21件	8人	23本
	派遣人数	210人	61人	18人	71人	新規登録者: 0人	
3月	派遣数	217件	24件	13件	10件	3人	18本
	派遣人数	238人	43人	27人	32人	新規登録者: 0人	

ご協力ありがとうございました

